

平成27年度 子どもゆめ基金 体験の風リレーションシップ事業 おおすみくん家 キッズたんけんたい

- 1 趣 旨 小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、遊んだり、協力したりする体験をとおり、自分に自信を持てるようにするとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 平成27年10月24日(土)～25日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学校1・2・3年生
- 4 募集定員 40人 (申込者：165人)
- 5 参加者 40人
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員
- 7 日程と主な活動



1日目 10月24日(土)		2日目 10月25日(日)	
10:00	・受 付	6:00	・起 床
10:30	・出会いのつどい		・荷物の整理
	・オリエンテーション	7:30	・朝食(レストラン)
10:45	<チャレンジ1>		
	「ふれあいタイム」	9:00	<チャレンジ5>
12:00	・昼 食(レストラン)		「科学で遊ぼう」
13:30	<チャレンジ2>		・スライム作り体験
	「秋さがしにいこう」		・ジャンボシャボン玉
15:00	<チャレンジ3>		・空気砲
	「遊びリンピックにチャレンジ」		・プラホビー
18:00	・夕 食(レストラン)	12:00	・昼 食
19:00	<チャレンジ4>	13:00	・ふりかえりタイム
	「どんぐりクラフト」	13:30	・別れのつどい
20:00	・入浴, 就寝準備	14:00	・解 散
21:00	・就 寝		

8 事業運営について

今回は、基本的な生活習慣、季節に応じた自然体験活動、科学的な要素を含んだ体験活動を位置づけプログラムを計画した。

- (1) 早寝早起き朝ごはんの実施や食事および寝具の準備、後片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣への意識を高めさせるようにした。
- (2) 山を散策しながらどんぐりや木の実を拾い、それを使ってクラフト活動を行うことで、自然とふれあう良さを体感できるようにした。
- (3) 科学的な遊びを通して、科学のおもしろさや不思議さを体感し、体験することの楽しさを味わえるようにした。



9 事業実際

(1) ふれあいタイム

ふれあいタイムでは、初めて出会う参加者同士が、緊張をほぐしながら打ち解けられるように「じゃんけんゲーム」や小学校低学年でもできる「レクリエーション」を行い、コミュニケーションをとることが苦手な子供たちも、楽しみながら自己紹介ができるようにした。友達のことをお互いに知ると同時に、人間関係づくりのきっかけとなった。

(2) 秋さがしに行こう

所内周辺を歩きながら、クラフトの材料（どんぐりや木の実、小枝など）を拾った。天気も良く、材料も豊富で、みんな袋いっぱいのだんぐりや松ぼっくり、その他の木の实を拾い、秋探しを楽しんだ。

(3) 遊びリンピックにチャレンジ

遊びリンピックでは、サイコロ1出し、空き缶積み、カード集めじゃんけんの3種類のゲームを実施した。低学年でも簡単にできる内容で、参加した子供たちは真剣に取り組んでいた。空き缶積みでは、新記録が出るたびに歓声があがり、それぞれが目標を持って取り組む姿が見られた。

(4) どんぐりクラフト

集めた材料を使って、思い思いのクラフト作りにチャレンジした。どんぐりや木の枝、松ぼっくりなどをうまく組み合わせ、個性豊かな作品ができあがった。完成後は、全作品を机の上に展示し、みんなで鑑賞した。鑑賞することで友達の作品の良さや自分の作品の良さに気付くことができた。

(5) 科学で遊ぼう

科学的な要素を含んだ活動をととして、その不思議さや楽しさを味わってもらう目的で実施した。内容はスライム作り、空気砲、ジャンボシャボン玉、プラホビー作りの4種類で、全てのコーナーを各班で回りながら体験した。

普段なかなか体験できない内容も多く、子供たちの関心は高かった。楽しい遊びを取り入れながら、科学の不思議さに興味を示し、充実したひと時を過ごすことができた。



10 成果

共同生活を通して、「早寝早起き朝ごはん」運動を意識させることができた。

3年生を班長にしたことで、リーダーとして責任感を養うことができた。

自然体験活動や科学体験活動を取り入れたことで、その良さや不思議さなど興味・関心を高めることができた。

親元を離れ、自分のことは自分で行う体験を通して、子供たちの自立心を養うことができた。

参加した児童からは、「たくさんの友達ができてうれしかった」「班長に初めてなって、みんなのお世話をがんばった」「ふとんを自分で上手にたためた」「みんなでいっしょに寝たことが楽しかった」などの感想が寄せられた。

